

2013 年 09 月 15 日号	JAC 00会 NEWS LETTER	発行：日本山岳会 00 会 発行人：佐藤 允信 編集者：本間 正士
-------------------	----------------------------	---

念願かなって甲武信岳 2013 年 6 月 5 日(木)～6 日(金)

参加者：酒井 佐藤 本間 吉田 綾部 綿貫(記)

コース：1 日目 信濃川上駅(タシ) 毛木平—ナメ滝—千曲川源流—甲武信岳—甲武信小屋

2 日目 甲武信小屋—三宝山—武信白岩山— 十文字峠 — 毛木平(タシ) 信濃川上駅

2013 年の山行計画に甲武信岳を取り上げてもらった。初めて登る、長い間憧れていた山である。

今年は一足早く梅雨に入ったとの報道があったが、6 月 6 日、雨の合間に長野新幹線の佐久平経由で信濃川上駅に向かった。この方が中央線経由より小海線乗換えの連絡がよく川上駅に早く着くことができ、私の足でも明るいうちに甲武信小屋に着くことができる。

信濃川上駅で予約しておいたタシに乗り、10:20 に毛木平に着いた。平日であるのに広い駐車場はほぼ満車で、十文字峠に咲くアズマシャクナゲ見物が目的のようである。

毛木平からの千曲川源流コースは千曲川の西沢を遡り、水源の一滴を確かめることができるので、人気がある。誰でも登れる一般的なコースである。

沢沿いに林道を進むとほどなく大山祇神社に着く。林道はここで終点。登山の安全祈願をする。新緑の気持ちのよい道に導かれ、高度を少しずつ上げていくと、勢いよく流れていた水音がせせらぎのように小さくなり、信濃川水源地標の立派な標識が建つ広場に着いた。

毛木平から 3 時間 50 分。順調。おいしい水を飲み、しばし休憩する。ここからが、本日の本番。水源地標から樹林帯の中の急登を頑張ること 1 時間余りで三国県境の甲武信岳山頂に着く。

石屑を積み上げた上に、日本百名山甲武信岳の大きな標柱が立っていた。雲が多く展望はいまいちだったが、金峰山は確認できた。

甲武信小屋は期待通りの、木造の秩父らしい小屋であった。前庭で小屋主の山中徳治さんを囲んで、夕食前一杯。山談義を拝聴し、楽しい一時を過ごす。夕食はカレーであった。今夜の客は我々を含めて 20 名程度で、風通しのよい 2 階で寝る。

6 日、雲が多いが雨の心配はないとの予報で、予定より早く 5 時 45 分に出発した。甲武信岳の山頂を捲い

て十文字峠方面に向かう。東京都の水源涵養林で歩きやすい。三宝山は、今回山行の最高峰で 2,483 ㍎。甲武信岳より 8 ㍎高く一等三角点があったが展望はきかなかった。少し下がった所に展望台があり、雲海に浮かぶ八ヶ岳連峰が美しいシルエットを見せていた。

ここから先、登山道は倒木が目立ち、相当風が強い所らしい。武信白岩山は岩峰が聳え立ち、危険防止のロープが張られていた。

代表して佐藤さんだけが、山頂をふんだ。

大山は、シャクガの花のきれいなところ。ここから鎖 3 本が取り付けられている急な下り

をすぎ、なだらかな県境尾根を北進する。シャクガの群生

に迎えられ十文字峠に着いた。シャクガは真っ盛りであった。大勢の登山者が花を愛でながら休憩していた。まだ 11 時前。毛木平から信濃川上までタシを使えば、13 時 41 分の電車に乗れるので、予定を変更して、30 分余りの休憩で、下山。

十文字峠は中山道の裏街道として、秩父と信州を結ぶ往還道であり、多くの行き来があった様子で、よく整備されている下り一方の峠道である。八丁坂から急な下りとなるが僅かで五里観音を見る。ここまで小沢に沿って下ってきたが、西沢は水流豊富なのに、こちらは涸れ沢で、西沢と合流する地点でやっと流れが見られた。

少し飛ばして、タシの待合わせ時間までに毛木平に着いた。ここで、まだ山旅を続ける本間さんと別れて、信濃川上駅へと向かった。

(綿貫 記)



自宅(板橋区)から歩いた線上 2,000 km 佐藤允信

2013年3月10日～11日、甲州街道下諏訪から小淵沢間を歩いて甲州街道を完歩したが、この際自宅から線ですらないで歩いた距離がどのくらいになるのかその成果を計算してみた。

- ・日本海親不知の海岸～白馬岳～鹿島槍～針ノ木岳～烏帽子～水晶岳～双六～槍～穂高～焼岳～乗鞍～御岳～木曾駒・空木～鋸～甲斐駒～仙丈・塩見～赤石～岩岳～寸又峡～千頭～金谷～静波海岸(太平洋)
- ・自宅～奥武蔵～奥多摩～奥秩父雲取～笠取～大菩薩～雁ヶ腹摺山～清八峠～三ツ峠～杓子～石割山～平野～不老山～山北・矢倉岳～金時山～箱根～熱海・修善寺達磨山～天城峠～猿山～長九郎山～バサラ峠～下田～下賀茂～石廊崎灯台
- ・平野～西丹沢～桧洞丸・蛭ヶ岳～丹沢山・塔ノ岳～大山・平塚海岸
- ・富士山駅～佐藤小屋～山頂～富士宮～田子の浦海岸
- ・自宅～日本橋～千住～日光道中～日光駅～女峰山～男体山～太郎山～戦場ヶ原～中禅寺湖周りの山を一周、茶ノ木平～薬師～清滝～日光駅
- ・戦場ヶ原～湯元～奥鬼怒～尾瀬沼～尾瀬ヶ原～平ヶ岳
- ・金峰山～小川山～信州峠～横尾山～飯盛山～清里～赤岳(真教寺尾根—県界尾根往復)～蓼科山～八子ヶ峰～白樺湖～霧ヶ峰～観音沢～下諏訪～塩尻峠～松本～新島々～徳本峠～上高地
- ・上高地～徳本峠～蝶ヶ岳・常念岳～大天井・東鎌尾根～槍・穂高岳～前穂・上高地・梓川を挟んで一周、双六・黒部五郎～薬師～立山～奥大日岳
- ・八ヶ岳～キレット・権現～編笠山～西岳～小淵沢駅～甲州街道～長坂・黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳～北沢峠・日本海からのルートが繋がった。

・都内は自宅～日本橋～お台場(レインボブリッジ経由)、山手線一周、隅田川河口から北区の水門間～自宅
次の目標は未定ですが、中山道・東海道さらに葛城山系吉野まで繋がったら、奥駆道と繋がり熊野本宮大社まで線で繋がるのなどがなどと夢想しているところです。計算上では3,300km以上になるのだが・・・

スイスアルプスハイキング8日間の旅 7月2日～10日 酒井晴永 アイガーグレッチャーからクライネシャイデック

スイスは2回目だが前は2000年7月、ドイツ見学も兼ねたのでスイスではメンヒ登攀とスフィンクス展望台、エギーユ・デユ・ミデイが中心で、ツエルマットには行けなかった。今回はスイスだけの8日間で氷河特急を利用してツエルマットに入りマッターホルン中心に近くのトレッキングに参加した。

7月2日、ミュンヘンからスイスに入国し、マイエンフェルトでハイジの里を見学したあと、世界遺産ベ



ルニナ線に乗り、バスを乗り継いでサンモリッツに着く。サンモリッツから氷河特急に乗り、途中、バスに乗り換えて、氷河特急の名前の由来になったアレッチ氷河の見学とエギスホルン展望台を経て、再び氷河特急を乗り継いでツエルマットに着いた。2日前までは天候は大荒れだったらしいが、日本の梅雨明けのように2日からは雲ひとつない快晴でスイス滞在中、天気は最高だった。最初に予定していたハイキングコースのローデンボーゲンからリッフェルベルクまでは残雪が多く危険なため、交通止めとなり、標高を下げたコースに変えてしまったが、終始、マッターホルンを眺めながら高山植物を鑑賞しながらのハイキングになった。2回目のハイキングコースはアイガーグレッチャーからクライネシャイデックまで予定通り行われた。ユングフラウヨット見学の帰途、アイガーグレッチャー駅で下車してクライネシャイデック駅までの約3kmの高度差

約300種を草花を觀賞しながら下山した。滑りやすい砂利道の周辺には高山植物が咲き乱れ、深くきれ落ちた谷を隔てて白く輝くアイガー・ユングフラウ・メンヒを望みながらのハイキングは至福の至りである。途中の池に北壁の影を映すアイガーの勇姿は見ごたえがあった。コースのはるか前方には崖の上のかわいい山村、ミューレンを望みながら下った。高山植物の種類は日本とほぼ同じでスイスの夏は短い分、日本の春・夏・秋の草花がいっせいに咲き乱れていた。目についたものだけでもホタルブクロ・リンドウ・マツムシソウ・イワカガミ・ナデシコ・ハクサンチドリ・



スミレ類・チョウノスケソウ・オダマキ・ノコギリソウなど日本の草花と変わりはない。エーデルワイズは特別に保護された区画にあるだけで一般には全く見

けなかった。1日目のガイドは日本人の男性だったが2日目は日本の女性で植物には詳しいが登山はしないようだった。

全体的な感想として13年よりも観光ばかりでなく登山者が増えたように感じたし、メンヒ・モンブランともに肉眼でも登山者の踏跡がはっきり確認できた。それと氷河の

末端は明らかに後退していた。

ハケ岳山行 7月30日～8月1日 佐藤允信

7/30(火) 野辺山駅10:30着、10:50スタート。駅から車道歩きだが案内が少なく2度ほど道に迷った。赤岳県界尾根登山口14:10に着いてから、ゲートを潜り林道へ、東屋のある杣添尾根登山口着、16:30。東屋は草ぼうぼうなので、路上にテントを張った。他の登山者は誰もいなかった。

7/31(水) 6:00スタート、このコースは昨年登った真教寺尾根、県界尾根と違って鎖場はないが登りばかりで重い荷物には体力的にきついコースである。途中数人の若者に追い越された。また中高年初心者で元気のいい斎藤氏と知り合った。三叉峰9:50着、大休憩、11:00横岳、そしてコマクサの群落を楽しんだ。硫黄岳で水を2瓶買う。店番の人と話をし、野辺山駅から歩いて来たと云うと、今時の高齢者では珍しい、表彰者ですと言われた。夏沢峠から本沢

温泉へ15:30着。外湯と内湯に入る。外湯の泉質は強く、内湯は柔らかな感じがした。テント代600円、外湯600円、内湯800円。

8/1(木) 5時頃から雨、しばらく待ったが止まず。7:00スタート、天狗岳へ、風雨が強くなり、ガスがかかり展望もない。山頂10:00着、風雨が最高の時だった。中山峠から黒百合平から下山することにする。いつもの沢筋の道を歩いて唐沢鉱泉分岐手前で雨は上がった。渋の湯バス停14:25着、14:50のバスに乗って茅野駅15:50着、16:20発のあずさに乗って帰った。

今回の小海線側からの赤岳登山コース杣添尾根と本沢温泉入浴という2つの目的を達成することができ大満足であった。

焼岳山行 2013年9月12日(木)～14日(土)

参加者：佐藤 吉田 本間(記)

9月5日の佐武流山山行が悪天で中止になったため急きょ吉田さんから焼岳登山の提案があり、日程に空きがあった有志3名で出かけることになった。

初日は、ゆっくり出発し、松本、新島々、バスで上高地に入った。上高地は独身時代に行ったきりで何もかもが新鮮に見えた。今日の宿泊は以前から一度泊まっていたと思っていたJACの山研である。河童橋近くで時間調整し、15時過ぎに山研に入った。ちょうど入口で北海道から来た4人のグループと一緒にな

った。気になっていたミニ水力発電設備を見学、バルブを開いてペルトン水車を回し出力500Wに調整、定格出力900Wの可愛い発電機であった。今夜の宿泊は3グループ、8人でゆったりと部屋を使うことができた。夕食まで時間があるので明神池まで梓川沿いに散策した。明神岳は山頂までよく見えたが穂高の山頂は雲で隠されていた。夕食は山研のごはんとみそ汁、吉田さんが持参した野菜とベーコン炒めものその他で豪勢に食事をした。自炊が原則であるが炊事用具、調味

料、食器等に流し台も2セット有なかなか使い勝手が良いと感じた。〇〇会の仲間でまた来ようと話をした。

9/13(金) 朝のうち雲が多かったが日中はよく晴れ、この時期にしてはちょっと暑い絶好の登山日和になった。食事をして7:25 出発。梓川沿いに下りウエストン碑の前を通過して焼岳登山口に8:15 到着。霞沢岳、六百山の峰が対岸に迫って迫力があつた。登山口からの登りは森林のなだらかな道を歩く。1時間ほど歩いて少し急な登りとなりはしごやロープの厄介になった。森林限界を超えて間もなく10m以上もあるスリル満点の垂直のはしごを登れば焼岳小屋も近い。木陰がないのでとにかく暑い。大型台風の接近の影響らしい。11:00 緑の屋根の焼岳小屋に到着。ベンチで休憩しながら吉田さん持参のさつまいもをご馳走になる。おいしいサツマイモだった。西穂分岐を左手に進み15分ほどで展望台につく。大正池が広がり梓川をさかのぼれば赤い屋根の帝国ホテルが見えた。奥穂高の山頂は雲がかかっていたがいい見晴らしだった。焼岳の岩山を登り中の湯への分岐に到着、荷物を置いて山頂に向かう。10分ほど登り、13:00 焼岳北峰山頂到着。最高峰は南峰だが立ち入りが禁止されている。青空に前穂高が全容を現し、上高地が奥深く広がっていた。素晴らしいパノラマだった。山頂眼下には噴火口とエメラルドブルーの美しい火口湖が見えた。

編集後記

- 海水温の上昇はゲリラ豪雨や突風の発生の要因になっているようです。地球が壊れてしまわないように自然環境を大事に考えなければならないことの警告のような気がします。それにしても暑い夏でした。
- 平尾会員より通信費として1万円の寄付がありました。JACを退会されるようですが〇〇会にはよかったら参加してほしいものです。
- 大川会員と等々力溪谷を散策する会を計画しています。決定次第連絡しますので山歩きが難しくなった方々もご参加ください。
- 酒井会員の7月31日、富士山登山でのインタビューが山梨日日新聞の記事として載りました。80歳での記念登頂おめでとうございます。
- 例会は毎月第3火曜日、午後5時開始となります。今後の例会は10月15日(火)、11月19日(火)です。

荷物の置いたところまで戻り昼食をとった。13:50

中の湯に向けて下山する。低木と草原の広がる岩の道をひたすら下る。1時間ばかり下って樹林帯に入り広場で休憩、愛知県小牧から今朝5時に立って来たという陽気な3人グループとひと時楽しい話をした。中の湯からそのまま帰るのだからここからは焼岳を見上げるように山頂の白煙と岩山が陰しく見える。登山口16:05着。安房

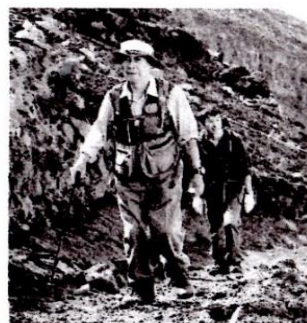
峠の旧道には駐車スペースもあり車移動には便利なコースだ。10分ほど休憩後中の湯まで山道を下り16:25一軒宿の中の湯温泉についた。

9/14(土) 朝風呂を浴びゆっくり宿を出る。釜トンネル脇にある洞窟風呂「ト伝の湯」に入り、10:25 発の上高地からのバスに乗って新島々、電車で松本に出た。駅前でそばを食べ、木曾のお姉さんの所に寄るといふ吉田さんと別れ、佐藤さんと松本城によって15:19 発のあずさで東京に帰った。天気に恵まれ北アルプスの雰囲気堪能した山行であった。



穂高を背に焼岳山頂

80歳記念で登頂 酒井晴永さん



原点の山「登り続けたい」

東京八王子市の酒井晴永さんは31日、4月に80歳を迎えた記念に仲間と富士山を訪れた。中学校中学3年の時、山梨県から赴任してきた担任教師や友人15人と初めて富士山に登った。その時、人生で初めて見た雲海は今も脳裏に焼き付いている。他の山にも興味を持ち、登山道を一步一步踏みしめる酒井晴永さん。5年、10年後もこの景色を見たい」と言つと、頂上視線を移した。

時代初めて経験した富士登山を機に山登りが趣味になったという酒井さん。原点ともいえる山に登り、これからも健康で山に登り続けたいという。

富士登山は今回が5回目。「80歳の節目に、これから山が続けられるかを日本一の頂上から富士山と向き合うのは初めてだった。八王子市の教員OBをつくる登山愛好会「やまびこ」のメンバー5人と31日午前5時を過ぎ、山に登った。自ら先導役を務め、山頂を登る。山頂は雲海で御来光を拝み、酒井さんの80歳を祝する予定。

酒井さんは「山に登って雄大な景色を見ることが人生の生きがい。5年、10年後もこの景色を見たい」と言つと、頂上視線を移した。

（野口健介）